

Oak Village. 通信

月刊オークヴェレッジ通信 No.377 2010.5.1 <http://www.oakv.co.jp>

光を求めて

石井 恭子 文
中嶋重紀子 写真

空を見上げて、森を見る……。

思わず目を細めてしまふほどの眩しさ。

青々とした若葉の間からこぼれる光の筋。

老木も若木も、新しい透き通った葉に生まれ変わり、

森の中はうっすらと緑色に染まります。

植物にとって、葉は太陽電池の役目。

ことに林床に育つ木々は、

少しでも効率よく光を受け止めるために、

その形や配列は絶妙なバランスを保っています。

私たちは、光ある方へ身を寄せたり木陰を求めたり、

何の縛りもなく自らの感覚で移動することができますが、

一見穏やかに見える森の中では、

地に根を張り隣り合うもの同士が競い合つて枝葉を伸ばし、

我先にと光を求め生きているのです。

葉と葉が重なり合つて結び合う様は、

空を覆うステンドグラスのように美しく、

思わず目を奪われます。

でも本当は、目に見える美しさよりも、

一本一本が懸命に生きようとするひたむきな姿に

惹かれているのかもしれない。

これから、若葉は徐々に青葉となり、

新緑から深緑に姿を変えていきます。